

まえがき——本書の特徴と活用方法

思い込みから始まるのでオッケー

まずは、本書を手にとり取ってくださった方に、お礼を申し上げます。おそらくあなたは、表紙のサブタイトルや帯の文言を読んで、「あっ、自分のことを言われている！」とか「自分の役に立つかもよ？」とか、あるいはまた、「そうか、最初は思い込みをしてもいいんだ。ちゃんと学んでいけば、就活や将来のことに自信をもって対応できる、そういうストーリーの本なんだな」と思われたのではないのでしょうか。

そうなのです。どんな人間にも、思い込みや見方の偏りはつきものです。どんなに経験を積もうが、どんなに偉くなろうが、どんなに齢を重ねようが、思い込みは、人間にまわりついて離れません。ましてや、20年かそこらしか生きていない大学生のあなたであれば、なおさらです。だから本書は、若い方々の思い込みを、一緒に考えながら解いていくことからスタートし、自由に伸びやかに生きてゆくための発想と術^{すべ}を身につけます。

働くこと、生きてゆくこと、日本という社会、そして世界——こうした事柄に関する思い込みは、なぜ生じるのでしょうか。その理由として大きいのは、「これがフツー」「それがあたりまえ」とあなたが思ってきた育ち方・暮らし方は、あなたにとって居心地が良くしっくりしているだけに、それ以外の多様な生き方や広い世界に関心を広げないように作用することです。

例を挙げましょう。ある日のこと、教師志望の学生が私にこう言いました。「僕は中学時代、野球部でした。公立の中学で、強豪校でも何でもなかったけれど、顧問の先生は平日も土日も祝日

も休みなく、練習に付き合ってくれたんです。野球の技術だけじゃなくて、人として大切なことも教わりました。そのお陰で、いまの僕がある。だから、生徒のために全力を尽くす教師になりたいと思います」。

どう思いましたか。「素晴らしいねえ、こういう人がいい先生になるんだよ」と、美談として受け取った人もいないのではないのでしょうか。けれども、ここに思い込みないし見方の偏りが潜んでいるのです。

私は訊き返しました。

「その先生、結婚されているの？ お子さんは？」

「はい、子どもさんは小学生と中学生で3人いて、奥さんも先生で」

「ということは、お子さんの面倒はおつれ合いが全部見ているよね、きっと。『あんた、他所の子の面倒ばかり見て、わが子のことは全部私に押しつけじゃない！』って、あなたの先生のパートナーさんは、不満がいっぱいでしょうね」

「……」

家事・育児に加えて、外で働いて稼いでくるといって「ダブル・シフト」をこなすパートナーのことなんて、この学生は考えたこともありませんでした。それは、〈野球を教える一教わる〉という〈教師―生徒関係〉のなかでしか、その先生のことを見ていなかったからでしょう。その関係が自分にもたすものに満足するあまり、それ以外のこと、つまりその先生が夫であり父親であることに、関心を払う必要性も興味も感じなかったわけです。

もっと自分を大切にしよう：自分の人生に手間暇をかける

したがってこの学生は、その先生との関係以外にも関心を広げて、「公立中学の先生って、毎日どんなふうに通っているんだろ

う？ ゆっくり休む時間とか家のことをする時間とかあるんだろうか？」といった疑問も抱いたことがないし、それゆえ、「じゃあ調べてみよう」なんて思ったこともないわけです。

まあ、小学生なら「○○になりたいです！」という願望表明だけでも可愛いもんですが、大学生なのですから、「これがフツー」「それがあたりまえ」と自分が思ってきた育ち方・暮らし方を客観的に見直して、多様な生き方や広い世界に関心を広げなくてはなりません。世の中には、知らないことがいっぱいあるのです。だから、知らなくてはならないのです。そのままでは、殻に閉じこもった人間でしかありません。

けれども、知らないことに直面したとき、人間は往々にして、「きつとこういうことだろう」と、自分の狭い経験と知識だけに基づいて勝手に思い込むか、誰かの言うことを鵜呑みにしてしまいます。たしかに、そのほうが楽なのです。わからないから調べるとか、ほんとなあと思って質問してみるとか、「うわっ、めんどくせー」「結論ゲットするのに、コスバ悪すぎじゃね？」って、つつい思いますよね。

でもみなさん、働くこと、生きてゆくこと、日本という社会、そして世界——これらは自分の将来、自分の人生のことなのです。もっともっと、これらのこと、つまり自分の人生に手間暇をかけませんか。自分の殻を突き破り、自由に生きませんか。それこそが自分を大切にすることなのです。

本書の構成

本書は、働くことを中心とした将来のことについて、みなさんの思い込みを解いて、必要最低限の知識を提示したうえで、キャリアデザイン（学）のコツを身につけることを狙いとしています。そのため、第Ⅰ部「自分とその周りから考える」（第1～3章）、第

Ⅱ部「社会のなかを手探りで進む」(第4~8章)という構成になっています。

第1章「『キャリア教育』とどう付き合うか?」では、「キャリア教育」って何なのか、「キャリアデザイン(学)」って何なのか、両者はどう違うのかを説明します。みなさんは、「キャリア教育」があたりまえになった時代に、「キャリア教育」をあたりまえに受けてきた世代です。だからこそ、そのあたりまえを問い直し、客観視しなければなりません。まずはこのように「キャリアデザイン(学)」の第一歩を踏み出し、その先にも少し進みます。

第2章と第3章は、「これがフツー」「それがあたりまえ」とあなたが思ってきた育ち方・暮らし方のなかで、絶対に気づいてほしい・考えてほしいなあと筆者が思う点にふれています。第2章「そのエントリーシート、中学生の作文!?!」では、大学生らしい文章が書けない理由としては、実は、「大人社会は汚い、嫌だ」と思い、「キレイ」な話に安住していたいという成熟回避が大きい、ということを述べます。そこを見つめないかぎり、どんなに就活対策をしてもパフォーマンスは上がりません。

成熟回避を促している要因に、家庭教育があります。第3章「わが子を未熟にする大人」では、「段取りママ」問題を取り上げて、このことを論じます。わが子の身の回りのことから将来の準備まで、何から何まで手回しの良いお母さん。「それじゃあ、子どもの自主性が育たないよね」。いえいえ、もっと深刻な問題があります。

以上、第Ⅰ部の3つの章で、学校や家庭での育ちをテーマに、みなさんの思い込みを解いたあとは、いよいよ、働くこと、生きてゆくことに関して何を知り、どんな考え方を身につけておけばよいかという、知識と知恵の増強に移ります。それが第Ⅱ部の第4~8章です。

「将来の仕事について考えなさい」と言われたら、みなさんの多くは、職業（occupation）に思いをめぐらせるでしょう。でも、それだけでは視点が足りません。従業上の地位（employment status）や世帯構成（household composition）という視点でもって、人びとの働き方・暮らし方を知る必要があります。若者の非正規労働者が増えているって、どれくらい？ 男女では？ ひとり暮らし（単身世帯）は、増えたの、減ったの？ 今後はどうなりそう？ なぜいまの経済はこんなふうなの？ 具体的な統計も読み込みつつ知識を拡大するのが、第4章「社会人はどんなふうにいるの？」です。この章では、ワークライフバランスについても、ありきたりな議論で満足することなく、考察を深めます。

知識の拡大というと、なんだかポジティブでカッコイイ感じがします。でも第4章を学ぶと、食べていくのがますます大変な世の中になっているんだなあということが痛感され、「どうしても働かなきゃダメ？」なんて言いたくなります。第5章「どうしても働かなきゃダメ？」は、この痛切な問いを探究します。そのために、まずは、さまざまなタイプの働いていない人びとについて考察をめぐらせます。すると、「どうしても働かなきゃダメ？」に対する自分なりの考え方を、発展させることができます。

第6章「機械が取って代わるジョブ」は、技術革新と人間の生活・労働について考えます。スマホやIH電子レンジやAIエアコンに囲まれて育ったみなさんは、「快適な生活って、いいなあ。テクノロジーって素晴らしいなあ」と思っていることでしょう。でも、ちょっと考えてみてください。あなたの生活を快適にするそのテクノロジーは、あなたが就きたい職業を、無用のものにしてしまうかもしれません。「〇〇という職業は、10年後にはほとんどなくなっている可能性が高い」。では、いまからどう備えればいいのか？ 第6章は、そんなことを考えます。

こんな調子じゃあ、どんどん暗くなりそうですね。でも、「世の中、世知辛すぎる。いまの若者が上っていけるキャリアのハシゴ（キャリア・ラダー）をもっと架けなくては！」と考え行動している大人はたくさんいます。第7章「社会には扶けてくれる他者がいる」では、どこにどんな相談機関があるのかを解説します。最近、そうした内容のパンフレットやウェブサイトなどが充実してきました。本書はもう一步進んで、「問題を抱えたときにどうするかも大切だけど、みんなが安心して気持ちよく働ける職場・社会を、みんなで協力しながらつくるのが、もっと大切だよ」と述べつつ、このことをもっと気楽に捉える発想法を示します。

最後の第8章「キャリアデザインを人生に活かす」は、総まとめをします。総まとめって何だ？ それは端的に、「本書の『使用前／使用后』で、自分はどこがどう変わったか／変わってないか？」と自問し答えることです。「知らないほうが幸せだった」「もっとしんどくなった」、そんな人もいるでしょう。それはなぜでしょうか。あるいはまた、「知識が増えて良かった」「考え方が広がって嬉しかった」、そんな人もいるでしょう。何がどう良かった・嬉しかったのでしょうか。是非、これらのことを文章にし、かつ語ってください。なぜなら、キャリアデザインを人生に活かすとは、さまざまな直接・間接経験がもたらす、「幸せだ・しんどい・良い・嬉しい」といったフィーリングを表明して終わりにすることではないからです——まえがきとしては、さしあたりこう述べておきます。

本書における3つの仕掛け：手軽さ感覚・遊び感覚・本番感覚

以上が章立てでして、真面目な話をしました。でも、「真面目なだけの教科書じゃあ、読む方は面白くないよね」とつねづね思っていますので、手軽さ感覚・遊び感覚・本番感覚も重視しまし

た。そのための仕掛けが、以下の3つです。

(1) サプリメント・コラム：就活や部活で多忙な人はここだけでも

各章の終わりなどには、コラムとして「サプリメント＝栄養補助食品」が合計10本、掲載されています。目次でそのタイトルを確認すると、「大学生の勉強方法とか、その類の話ね」と思われるかもしれませんが、実は、そうした本には載っていない、でも摂っておくとググッと馬力を出せる「お祖母ちゃんの知恵」的な「滋養強壯食品」です。このサブ・コラを読むと、勉強／部活・サークル／バイト／就活と、あなたが勝手に立てていた仕切りが取っ払われて繋がるので、パフォーマンスがぐんと上がります。

こうしたコラムに紙幅を割いているのは、忙しいみなさんには、そのほうが使いやすく効果的だろうと考えたからです。就活真っ最中で慌ただしい、部活が大変で勉強時間が足りない、そもそも勉強なんて大嫌い、という方は、まずはこのサブ・コラだけでいいので、読んでみてください。「こんなちょっとしたことを知っているかどうかで、こんなにもパフォーマンスが変わるんだ!」と「目からウロココンタクト」が起こるでしょう。

(2) 章扉クイズ：気楽に遊び感覚で

各章の扉には、quizが載っています。quizという英語には、簡単な質問とか、遊びとしての質問といった意味があります。「ええ～これからこの本、何十ページも読むの？学校の勉強っぽくって、何だかウザそう～」なんて「食わず嫌い」のあなた、心配は要りません。school(学校)という英語は、もともとギリシア語のscholē(スコレー)、つまり「ヒマ、討論」から来ています。「ヒマだなあ」と感じたら、「なんか面白いこと、しよう」って思

いますよね。つまり遊ぶ。そのなかで、クイズはなかなか面白い。「ねえねえ、知ってる？」ってお喋りを始めると、みんなで遊べる。「それってさあ、〇〇だよ〜」なんて、討論が盛り上がります。

反対に、「私はちゃんとキャリアデザインをガ・ク・モ・ンする！」と張り切っているあなた。その本気度は素晴らしいですが、もっと肩の力を抜きましょう。学問のキモは、しかつめらしさにあるのではなく、真理・真実にふれようとすることにあります。真理・真実に接近するには、自分で考え抜く力と同時に、遊び感覚とユーモアもまた不可欠です。

(3) 「対話的練習問題」：人生相談に乗ってみる

各章の最後には「対話的練習問題」があります。「ん？『対話的』な『練習問題』って何だ？」——それはですね、ある人の人生相談にあなたが答える、ある人の意見に対して、理由とともに賛否を述べる、といった、対話的形式をとった問いになっている、ということです。各章で身につけてほしい知識や考え方を応用しながら、文章を書いてみてください。

練習問題は第8章をのぞき、2題ずつあります。Iはやさしめ・(どちらかというと)「ストリート系」、IIはやや難しめ・(どちらかというと)「アカデミック系」の問題です。

これらの練習問題は、入試やテストの論述問題と根本的に異なっています。あなたの書いたことを読んで、感情や考えが刺激されて、何か言い返したくなるであろう、生身の人間に向けて書くからです。だからそこには、新鮮で知的な緊張感があるでしょう。それは、「本番感覚」なのです。文章を書いたら、授業のメンバーや先生、あるいは友達とシェアしてみてください(本書を授業で使用してくださる方に、老「婆」心より申し上げますと、宿題やレポ

ート課題、試験問題などに活用可能です。なお、有斐閣のウェブサイトは、ウェブ・サポートとして先生方向けのインストラクションを盛り込んでいます)。

本書は、「薄く・安く、読みやすく・軽快に、でも密度は濃く真摯に」をモットーに作りました。読みやすく・軽快にするために、日常会話の文体を使っています。「です・ます調」の使用に加えて、「そりゃまあ」とか「ツッコミ入れよう」といった、くだけた言い回しが、ところどころに出てきます。念のため申し上げますと、みなさんが論文やレポートを書くさいには、本書の文体をマネせず(マネると危険!),「だ・である調」を使ってください。どんな文章にも、その目的に適した文体があります。

本書を読む順番としては、第1章から順に進んでいくのがオーソドックスかと思いますが、たとえば、就活真っ最中なんだけど何だかスランプだとか、手っ取り早く就活のハウツーを知って成功したいという人は、手始めに第2章を読めばよいでしょう。他方で本書は、噛み応えも充分であるようにと、ところどころ難解な内容をもぶつけています。そういう箇所も、思いっきり背伸びをして読んでほしいなあと思います。背伸びをしてはじめて、自分の殻の外を広く見渡し、異なる他者と出会い、成長していけるからです。

それではみなさん、しばしお付き合いください。

CONTENTS

まえがき——本書の特徴と活用方法 *i*

思い込みから始まるのでオッケー　もっと自分を大切にしよう：自分の人生に手間暇をかける　本書の構成　本書における3つの仕掛け：手軽さ感覚・遊び感覚・本番感覚　(1) サプリメント・コラム：就活や部活で多忙な人はここだけでも　(2) 章扉クイズ：気楽に遊び感覚で　(3) 「対話的練習問題」：人生相談に乗ってみる

第 I 部　自分とその周りから考える

第 I 章 「キャリア教育」とどう付き合うか？…………… 2

——大人の言うことを真に受けなくてもいい

1 「キャリア教育」って昔からあったの？　3

本章の目的と構成　経済社会の変化と「キャリア教育」
「キャリア教育」の中心的主張　「キャリア教育」の問題点

2 先生方も「キャリア教育」で悩んでいる　11

「キャリア教育」の「お約束」的实践　逆算方式で動機づけ
「キャリア教育」の軌くびき　「個人／社会」の軸と「現実／理想」
の軸とで図解する

3 どんな社会で生きていきたいか、自分の頭で考える　19 ——キャリアデザイン学

キャリアデザイン学は何をするのか？　キャリアデザイン学
の学際性：哲学を出自とする問いを現代的に追究しよう　あ
る意味みんなが素人の社会：キャリアデザイン学が必要だ！

対話的練習問題①

第2章 そのエントリーシート, 中学生の作文!? … 27**—けれどもそれを直せない**

- 1 どこが大学生らしい文章になっていないのか 29
 本章の目的と構成 ダメダメな箇所
- 2 なぜ中学生の作文レベルにとどまってしまうのか 33
 大人として向き合えていない やたら「共感しました」と答えてはいけない “Feel Good” でいたい: 「キレイ」な話に住する
- 3 就活対策してもムダ 38
 — 「マジで」人文・社会科学を勉強しよう
 人文・社会科学を学ぶ: 汚れに対する耐性をつける 人文・社会科学のボキャブラリー: 自己を物語るためのストック
 作文ダイキライ: 道徳教育と混同した作文指導の弊害 ディテール (具体的事実) を重視せよ

対話的練習問題②

第3章 わが子を未熟にする大人 …………… 52**—親を突き放す優しさが要る**

- 1 「段取りママ」—愛という名の支配 53
 本章の目的と構成 「段取りママ」: わかっちゃいるけどやめられない ハードコア系「段取りママ」 親だって、ただの弱い人間である
- 2 自主性が育たないことより問題なこと 60
 —大人を「家来」視する大学生
 自分の快・不快が中心 大学でも快・不快を中心にして学ぶ傾向

3 「失敗を恐れるな」への不信 66

——自己を「ゆるす」までの苦しみ

大人の社会は、人様のためにずっと段取りし続けるところ
段取りとは未知への挑戦である 「失敗を恐れるな」が信じられない理由
それでも失敗を恐れる理由 小さな挑戦から始めよう

対話的練習問題③

第Ⅱ部 社会のなかを手探りで進む

第4章 社会人はどんなふうにいるの? … 76

——実は知らない多様な生き方

1 どんな区分で「働くこと」を見るべきか 77

本章の目的と構成 仕事と生活に関する基礎用語 世帯構成と就業の有無の関係変化

2 BtoC すらよく知らない, BtoB はもっと知らない 86

BtoC の目線がうむ「有名企業」 自己啓発本では「働くこと」のリアリティはつかめない キャリア・ヒストリー研究を読んでみよう／自分でやってみよう

3 その社会人に「夜」はあるか? 94

誰のためのワークライフバランス? 疲れがとれれば充分か?／好きで残業しているから構わないのか? 夜・芸術・内省

対話的練習問題④

第5章 どうしても働かなきゃダメ？ …………… 103

——でも、同じことを訊かれたら……？

- 1 「働かざる者、食うべからず」と言いたくなるとき 104
 本章の目的と構成 稼働能力の有無×経済的必要性の有無
 働くことの道德化：その根底にあるもの どうしても働かな
 きゃダメ？：発展性に乏しい問い
- 2 みんながディーセントに働けるかを気にかけない経済 111
 ディーセント・ワークは必要十分に存在しているか？ 雇用
 管理思想の変化
- 3 強くないプレーヤーも安心して暮らしていける社会 116
 リスクを取れないのはダメ人間か？ キャリア形成で扶け合
 える他者 「ゆるし」は伝播する：本章のまとめ

対話的練習問題⑤

第6章 機械が取って代わるジョブ …………… 125

——じゃあ、いま何を学ばばいいの？

- 1 便利・快適・愉快でオッケー？ 126
 本章の目的と構成 販売員やセールスマンとのやりとり
 減る雇用と増える雇用
- 2 どんな能力・技能が退化しているか 133
 退化するとまずいもの 不愉快な物事への耐性と対応力の退
 化 実存的存在からの退化
- 3 ではどう備えるか——ともに経験し味わう力を養う 140
 唯一無二の人生から疎外されないために 現実空間に身を浸
 す：バーチャル空間はほどほどに 他者の判断の根拠を問う
 クセをつける ほんとうにわからなくて困ったら人にそれを

説明する

対話的練習問題⑥

第7章 社会には扶けてくれる他者がいる …… 149

—そして扶け合う人になる

1 人に頼るのが不器用な学生 150

本章の目的と構成 人に頼るのが不器用な理由 「まあ、自分が我慢すればいい」でいいのか？ 権利行使の「肩慣らし」：ここぞというときのために

2 そんなときはここに相談しよう 155

相談機関はネットワークを組んでいる 労働者の権利に関する相談機関 仕事探しに関する相談機関 職業能力と職業教育訓練 職業教育訓練に関する相談

3 扶け合う職場をつくる—それが本当の解決 166

「知は力なり」は本当か？ 分担して少しずつ背負う 働くことの原動力：好みや能率や競争だけでなく

対話的練習問題⑦

第8章 キャリアデザインを人生に活かす …… 174

—まずは相手に譲ること

1 各章で言いたかったことの要約 175

本章の目的と構成 各章で言いたかったこと

2 どんな社会で生きてゆきたいか？ 187

—言いたかったことを1枚の図で

3 自己の本来的使命は何か？ 189

どうすれば気づけるのか？ 自己抑制から本来的使命へ
おわりに：「キャリア教育」から「キャリアデザイン学」へ

対話的練習問題⑧

引用・参考文献	197
あとがき	200
INDEX	203

サプリメント・コラム

- ①：「セクシー」な本は自腹を切って買う——何度も書き込みバイブル化 23
- ②：板書は手で写そう——撮って安心，アホのもと 46
- ③：文具代はケチらない——身辺を整えられることが大人の証拠 70
- ④：予習のほうが復習より大切——教わる前に自力でやってみる 91
- ⑤：所要時間を記録する——自分の実力を知る 120
- ⑥：「スマホ断ち」する日をつくる——感性と知性を磨く 142
- ⑦：レポートにはタイトルを付け，第1段落に目的とあらすじを書く——書くのがグンとうまくなる 165
- ⑧：多読と精読，どちらが大事？ 173
- ⑨：Late and FastではなくEarly and Slow——緊急中毒では実力はつかない 182
- ⑩：制限時間内に質の高い文章を書くには？ 193

第 I 部



自分とその周りから考える

第2章 そのエントリーシート, 中学生の作文!?

○けれどもそれを直せない



■ 扉クイズ②

心理学専攻のC子さんは就職活動中です。配食業のグローバル・フーズ社に対するエントリーシート(志望理由書)を書き上げて、これから提出しようとしています。希望は営業職です。C子さんのエントリーシートは、どれくらい書けていると思いますか？

- A. よく書けている
- B. まあまあ書けている
- C. 普通である
- D. イマイチである
- E. ダメダメである

グローバル・フーズ社／エントリーシート

◆次の3点について、600字で書いてください。(1) 弊社を志望する理由、(2) もしあなたが入社したら、弊社において、どんな能力によってどんな貢献ができると思うか、(3) そうした能力をどうやって身につけてきたか。

C子さんの書いたこと (593字)

私が貴社を志望するのは、貴社の理念に書いてあるように、貴社が「食」をとおして社会に貢献しているからです。近年、食育が叫ばれており、栄養バランスのとれた食事をすることはますます重要になっています。貴社のホームページでそれを読んで、私はとても共感しました。また、入社2年目までは、年の近い先輩を指導員につけて育成していると書いてあり、丁寧に教えてもらえ成長できることにも魅力を感じました。

もし、私が入社させていただいたならば、持ち前の傾聴力を発揮して、お客様のニーズをつかみ、新しい配食先を開拓したいと思います。私は友達からよく「C子ちゃんは話を聴くのがうまいね」とか「C子ちゃんに話すと楽になる」などと言われます。いまでも続けているダンスサークルは、一つ上の学年は、気の強い先輩が多いです。それで、私の学年との関係がうまくいかなかったのですが、同学年だけでなく先輩からも相談を持ちかけられ、よく話を聞いていました。また、私はファミリーレストランでアルバイトをしていますが、いまの店長は人使いがかなり荒いです。そのため、バイト仲間の不満が絶えず、いつも愚痴の聞き役にまわっています。

私は、サークルとアルバイトで、人の話を聴く力をつけたと思います。営業は、お客様のニーズに合ったものを提供することが仕事ですが、それには、こちらからどンドン喋るのではなくて、お客様のお話を聞くことが肝心だと思います。

1 どこが大学生らしい文章になっていないのか

本章の目的と構成

みなさんは、C子さんのエントリーシートに、5段階評価で何を付けましたか。ちなみに筆者は「E. ダメダメである」。「これじゃあ、中学生の作文レベルだよ?」と、思わず言いたくなる内容・表現力です。

本章ではまず、C子さんが書いたエントリーシートは、どこがダメダメなのか、つまり、大学生らしい文章レベルに達していないのは具体的にどこなのかを指摘します(第1節)。次に、なぜ中学生のレベルにとどまってしまうのか、その理由は成熟を回避してきた生活にあることを説明します(第2節)。そして最後に、対策を述べます。いきなり就活対策してもムダであり、その前に「マジで」人文・社会科学を勉強しよう、と助言します(第3節)。

つまり本章は、エントリーシートの執筆という、みなさんの大多数にとって大変重要な問題を切り口にして、**成熟することについて考えていく**ことを目的とします。

ダメダメな箇所

C子さんが書いたエントリーシートでダメダメなところは、5点あります。

第1に、企業のホームページという、基本的に「キレイな」としか書かれないところの文章を鵜呑みにしたうえに、それを当の企業に宛てた文章にそのまま用いています。「でも、きちんと栄養のバランスのとれた食事をするこ^うとって大事なんだし、それ

を大切に社会に貢献していることって、良いことなんだから、良いことをしていると思います、って書くのがどうしていけないの？」とC子さんは疑問をもつでしょう。

なぜダメなのか。それは、相手の主張をコピーし繰り返しているだけ、つまり、**自分の視点や意見がまったく欠けている**からであり、相手の「キレイな」主張にツッコミを入れていないからです。ここでいうツッコミというのは、お笑いのそれと同じようなものです。相手の主張にボケ（論点）を探して、議論を発展させる。**いいツッコミは、相手の核心をつく**ものです。けれども、C子さんの文章にはそれがありません。

C子さんは、「私は貴社のホームページを読んでいます」と「アピって」いるつもりかもしれませんが。「貴社の理念に私は賛成している、私は貴社が気に入っている、ということが伝われば、自分も気に入ってもらえる」と思っているのでしょう。しかし、それは違います。グローバル・フーズ社の採用担当者は、「この学生は、わが社の文章を丸写ししている。何にも考えていないなあ。ビジネスは、公式サイトに書いてあるような奇麗事ばかりじゃないってこと、わかっているのかなあ。いずれにしても、配食業者について何にも調べていないことだけは確かだ。表面だけを見て作文しているだけだ」と考えるでしょう。

自分の視点や意見を、鋭いツッコミも入れながら書くには、配食業者は現在、どのような経営課題を抱えているかを調べ、「……ということは、こういうことでコストが嵩^{かさ}んでいるじゃないかなあ？」といったように、仮説を考え出したりすることです。もしかすると、そのツッコミはズレていたり間違っていたりするかもしれませんが。でも、それは問題ではないのです。**情報収集をして自分なりに分析をし、それを文章に表す力量があるかどうか**、見られているからです。

ダメなところの第2は、**成長していくことを、人から教わることだと思っている**ことです。「丁寧に教えてもらえ成長できることにも魅力を感じました」という箇所にそれが現れています。ここには、自ら能動的に学んでいく姿勢が見られません。「でも、成長したいって意欲を表明しているのだから、能動的だと受け取ってもらえるんじゃないの?」と疑問をもつ人がいるかもしれませんが。しかし、それは違います。ここから読み取れるのは、「何をしたらいいか教えてくれたら一生懸命やります」という受動的なニュアンスでしかありません。

ダメなところの第3は、**紋切型の単語やフレーズが満載**だということです。「共感しました」「魅力を感じました」「お客様のニーズをつかむ」……読んでいる方は飽き飽きします。紋切型の単語やフレーズは、読み手の感性と思考を刺激しないからです。文章の読み手は、書き手の新鮮な感性や鋭い考察によって、動かされます。紋切型の単語やフレーズには、それが含まれていません。

哲学者のサルトルが「方法の問題」という論考で指摘しているように、紋切型の表現を使ってばかりの人間は、「真実らしさのことなど少しも気にかけない」のです。「事実の具体性は…(そうした人間の) …興味をひかない」のです(邦訳p.416)。私たちが刻一刻と生きているその生がもつ豊かさを、味わえていない。紋切型を多用したC子さんは、まさしくこれに当てはまるでしょう。とりあえず、それを使っておけば無難に事が過ぎる(スルーできる)ような表現を安易に活用している。その結果、もしかしたら、C子さんがもっているかもしれない新鮮な感性や鋭い考察を、ダメにしてしまっているかもしれません。

第4にダメなのは、「傾聴」とはいったい何をする事なのか、それを**明確に示すエピソードを挙げられてない**ことによって、「傾聴」に関する浅薄な理解を露呈してしまっているということ

です。C子さんの文章には、自分はいつも人の話を聴いている、ということしか描写されていません。しかし「傾聴」とは、そんなことではありません。それは、話の脈絡が混乱したり、感情が高ぶったり、実は言い出せずにいることが見え隠れしたり……といった様子の相手が、安心して話す状況をつくり、自分の感情や考え方を自分で整理するよう、いざなうことです。つまり、話し相手に＜自分自身への傾聴＞（大塚2014, p.110）をもたらすことなのです。

厳しい字数制限のなかでも、こんなことを描写する、ちょっとした具体的なエピソードがあればいいのに、「傾聴」についての理解が浅いままでいるC子さんには、それが書けません。心理学を専攻しているのなら、もっと勉強してほしいものです。

しかもCさんは、サークルの先輩やバイト仲間がほめてくれることだけを、「傾聴」が得意なことの根拠にしています。これでは書き手の精神年齢が幼いことを印象づけてしまいます。たしかに、他者の指摘は自己の客観的評価になりえますが、もし書くのなら、どのへんを指して聴くのが上手いと言っているのか、なぜ・どんなふうにならると言っているのか、具体的に書くべきです。そうしないと、読み手には伝わりません。

第5に、わずか600字という限られた字数のなかで、第3段落は第2段落の無駄な繰り返しとなっており、本来もっと書くべきことを書くスペースがなくなっています。本来は、配食業者がおそらく直面しているであろう経営課題を生き生きと描写したり、「傾聴」に長けていることを示唆する具体的なエピソードを書いたりするべきです。

2 なぜ中学生の作文レベルにとどまってしまうのか

大人として向き合えていない

以上5点、C子さんのエントリーシートが中学生の作文レベルでしかない理由を述べました。それではなぜ、そんなレベルにとどまってしまうのでしょうか。「そりゃあ、業界分析とか企業分析とかやっていないからだよ。それをやらないで、志望理由や自分の活かせる長所について、ちゃんと書けるわけがない」。ええ、そのとおりです。あなたはC子さんに、「業界分析と企業分析をやってから書きなよ」とアドバイスするでしょう。しかし、おそらくC子さんは、業界分析・企業分析によってくわしい情報をたくさん得たとしても、大学生らしいエントリーシートは書けないと思います。なぜなら、エントリーシートを読む採用担当者という大人に対して、**大人として向き合うことができている**からです。

大人であるとはどういうことか。それだけで何冊もの本になってしまう大きなテーマですので、本書での議論に合わせて指摘を2つに絞ります。ここでいう「大人である」とは、第1に、**好き嫌いの感情を中心にしない人間関係がもてること**。第2に、**理不尽で汚く、何が正しいか結論の出ない人間社会のなかにあっても、そこから逃げずに状況を引き受けていくこと**。C子さんは、これら2つの、大人であることの条件を充たしていません。そのことは、エントリーシートの書きぶりからうかがえます。

やたら「共感しました」と答えてはいけない

「共感しました」「魅力を感じました」という表現に注目してください。これらの表現は、C子さんの感情を表明しています。「私はあなたのことが好きです」「私はあなたの考え方・やり方を好ましく思います」という感情表明です。では、なぜこうした感情を表明するのでしょうか。それは、お返しに自分のことも好いてほしい、好ましく思っていてほしいと思っているからです。

私たちは経験から、自分が好ましく思っている相手は、自分のこともそう思ってくれることが多いことを知っています。また逆に、あんまり好きになれないと思う相手は、たとえそうした態度を隠している（つもりだ）としても、なぜか（というか案の定）その感情は伝わって、自分のことを好ましく思ってくれてないことが多いです。

しかしだからといって、自分のことを好いてほしいなら相手を好くことだ、それを行動で示すことだということしか考えずに行動するのは、大人ではありません。大人と大人の関係は、好き嫌いを中心とした感情の次元以外が、より大きく広がるものであり、そこでどうふるまえるかが大切です。エントリーシートもその1つなのです。エントリーシートで問われているのは、C子さんの場合なら、配食業者の具体的事実を、自分がそこで働くことに引きつけて、生き生きと捉えられているか、という点です。

けれども、好き嫌いを中心とした感情の次元でもっぱら物事を捉えていると、「どういうふうに書いたら、自分は好かれるかな」ということばかり（無意識のうちに）気にして書くので、「私はあなたの考え方・やり方を好ましく思います」という感情表明に終始してしまいます。食を通じた社会貢献に「共感しました」とか、メンター制度に「魅力を感じました」といったように、小学生の

「ママ、だあ〜い好き！」的表現になってしまうのです。

それにしても、学生のみなさんは、リアクション・ペーパーやレポートにやたらと「共感しました」と書いてきます。「今日の授業では、『人間の原動力は競争心だけではない。もっぱら競争心を刺激する社会の規範や制度は問題である』という説明に共感しました！」とか。筆者には違和感があります（はっきり言って、少し気持ち悪い……笑）。なぜなら、「共感する」は、「魅力的だと感じる」と同様に、相手と一体化したいという願望を含んだ言葉であり、そういう願望を抱くとき、知性の次元において物事を考え判断していく動作は、どこか放棄されがちだからです。「いやいや、『共感』しなくていいから、ほんとうに『理解』したことが伝わる知的な文章を書いてくれない？」と思います。

みなさんは、「傾聴には共感が大事だ」という主張を、過剰に受容しているのでしょうか。相手と一体化したつもりでいることは、意見や価値観の相違がないということなので、安心なのだと思います。「異見を言ったら、この人が気を悪くするかもしれない」「違う見方を表明したら、この人に嫌われるかもしれない」、そんな心配をしなくて済むからです。結局のところ、「自分は好かれているか」ということばかりを気にしている、つまり、人間関係を取り結ぶときに、もっぱら好き嫌いを中心とした感情の次元にとどまっているのです。

C子さんは、こうした自分の傾向や性質を客観視しない限り、どんなに業界分析・企業分析を行なっても、大学生らしいエントリーシートは書けないでしょう。知性の次元における人間関係も大切だということに気がついていないからです。

“Feel Good” でいたい：「キレイ」な話に住居する

大人であることの第2の条件として、理不尽で汚く、何が正し

いか結論が出ない人間社会のなかにあっても、そこから逃げずに状況を引き受けていくこと、を挙げました。私たち人間は、それぞれの事情・立場・価値観に基づいて、自分は正しい、これが最善の対応なんだ、と思いながら行動していますが、それは間違っていると非難されることがたくさんあります。また、社会には、理不尽で汚いことがいっぱいあります。経済・経営・労働関係のニュースにちょっとでも接すれば、そのことはわかります。不正な会計処理、不誠実な商売、いわゆる「ブラック企業」「追い出し部屋」「パワハラ・セクハラ・マタハラ」……。

「自分がエントリーシートを出す企業も、内定もらって行くことになる会社でも、きっとこういうことがあるんだろうなあ」。ええ、そのとおりです。完全なる「ホワイト企業」など、この世に存在しません。大半は「グレー企業」なのです。こうした不安・疑問・認識を大切にもち続けてほしいと思います。もちろん、自分が働くことになるかもしれない組織に、ネガティブな要素があちこちに転がっているであろうと予想するのは、気持ちの良いことではありません。

しかし、だからといって、相手を美化し、自分をそこに一体化させることによって“Feel Good（何となくイイ気分）”でいようとするのは、成熟した姿勢であるとはいえません。人間社会は汚いのであって、不誠実な商売やパワハラに直面したら、善悪の判断を下して行動しなければならないのです。けれども、就活をしている大学生のみなさんを見ていると、業界分析・企業分析のさい、「キレイな」情報や文言に吸い寄せられて“Feel Good”になっている人が少なくないのです。ネガティブな情報や文言に接すると、なんだか自分が汚れるような気がするからではないでしょうか。

第I章の終わり（p.25）で言及した人文・社会科学系の学問——文学や歴史学、政治学や社会学などなど——は、人間社会の

面白さやすごさと同時に、その理不尽さや汚さ、さまざまな事情・立場・価値観が渦巻くなかで人間の苦悩について解き明かす学問です。したがって、それらを学ぶということは、何らかのかたち・程度で自分も汚れること、自分の汚さにも目を向けることに他なりません。「社会のこととか、難しいこと、考えたりするの、嫌い」という学生にときおり出会いますが、彼らは考えること以上に、自分を含めた人間社会の汚さにふれるのが嫌いなのだと思います。

勉強嫌いな学生でなくても、こうした傾向があるようです。「私は今まで自分の『こうなったらいい』という願望を述べてばかりの『きれいごとレポート』を提出していた。本当に物事を考えて、その問題に向き合っているならば、自分の意見のなかにはネガティブなものが出てくるはずである」。これは、ある勉強熱心な学生の自己省察です。現実の理不尽さや汚さを分析せずに、理想論だけ書いているところから、“Feel Good”が忍び込んでいることに気づかされます。

“Feel Good”でいたいというのは、自分が行動するさいに、善悪や真偽よりも快・不快を優先するということです。自分は汚れたくないのです。「ピュア」でいたいのです。けれども大人は、相手が嫌がるであろう質問をしたり、相手が怒るであろう真実を開示し相手に伝えなければならないことが、しばしば生じます。しかも、自分が正しいと思ってそうしても、やりとりのなかで、相手の言い分の理解が深まり、自分の狭量さや汚さが見えてきて恥ずかしくなったり……。「こんなこと、なくて済むならいいのに」と思うのですが、けれども、大人はそうして生きていかざるをえないのです。

にもかかわらず、「そんなことを経験するのは嫌だなあ」と思っていると、「キレイな」情報や文言ばかりに吸い寄せられる自

分に気づかないままです。こうした**自分の傾向や性質を客観視しないかぎり**、どんなに業界分析・企業分析を行なっても、大学生らしいエントリーシートは書けないでしょう。

なお念のためにいえば、筆者は、企業の汚い側面についても指摘したエントリーシートを書きなさい、とっているのではまったくありません。というか反対に、そういうことは書くべきではないのです。ここで述べたいのは、エントリーシートを書くにあたって、業界分析・企業分析をするさいに、「キレイな」情報や文言ばかりを追って“Feel Good”になるのではなくて、「この会社に入ったら、きっとこれこれの嫌なことも起こるだろうな、そのときは逃げずにいよう（こうして自分を守ろう）」といった考えを、頭の片隅でよいから置いておいてください、ということです。

3 就活対策してもムダ

●「マジで」人文・社会科学を勉強しよう

人文・社会科学を学ぶ：汚れに対する耐性をつける

ここまで、大学生らしいエントリーシートを書くには、就活対策より先に、大人になること（成熟すること）が必要である、ということ論じてきました。大人になることなくしては、いくら就活対策をしてもムダです。大人になること条件はいくつもありますが、本章では、2つに絞って指摘しました。繰り返せば、第1に、**好き嫌いの感情を中心にしない人間関係を取り結ぶこと**。第2に、**理不尽で汚く、何が正しいのか結論の出ない人間社会のなかにあっても、そこから逃げずに状況を引き受けていくこと**。

では、どうしたらそんな大人になれるんだろう。こんな疑問が

◆著者紹介

筒井 美紀 (つつい・みき)

法政大学キャリアデザイン学部教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学，博士（教育学）。

京都女子大学准教授，法政大学キャリアデザイン学部准教授を経て，2015年より現職。

近著に、『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み』（共編著，勁草書房，2014年），「大阪府における地域雇用政策の生成に関する歴史的文脈の分析——就労困難者支援の体系化に対する総評労働運動の影響」（『日本労働社会学会年報』第27号，2016年），『大学選びより100倍大切なこと』（ジャパンマシニスト社，2014年）など。

殻を突き破るキャリアデザイン

——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる

Career Design for Break Through

2016年11月20日 初版第1刷発行

著 者 筒 井 美 紀

発 行 者 江 草 貞 治

発 行 所 株 式 有 斐 閣

郵便番号 101-0051

東京都千代田区神田神保町2-17

電話 (03) 3264-1315〔編集〕

(03) 3265-6811〔営業〕

<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・大日本法令印刷株式会社／製本・大口製本印刷株式会社

© 2016, Miki TSUTSUI. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-17425-2

JCOPY 本書の無断複写（コピー）は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail:info@copy.or.jp）の許諾を得てください。